

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5179773号

(P5179773)

(45) 発行日 平成25年4月10日(2013.4.10)

(24) 登録日 平成25年1月18日(2013.1.18)

(51) Int.Cl. F 1  
**A 6 1 B 8/00 (2006.01)** A 6 1 B 8/00

請求項の数 8 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2007-105384 (P2007-105384)	(73) 特許権者	300019238
(22) 出願日	平成19年4月13日(2007.4.13)		ジーイー・メディカル・システムズ・グロ ーバル・テクノロジー・カンパニー・エル エルシー
(65) 公開番号	特開2008-259715 (P2008-259715A)		アメリカ合衆国・ウィスコンシン州・53 188・ワウケシャ・ノース・グランドヴ ュー・ブルバード・ダブリュー・710 ・3000
(43) 公開日	平成20年10月30日(2008.10.30)	(74) 代理人	100095511
審査請求日	平成22年2月12日(2010.2.12)		弁理士 有近 紳志郎
前置審査		(72) 発明者	小西 美紀 東京都日野市旭ヶ丘4丁目7番地の127 ジーイー横河メディカルシステム株式会 社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 超音波診断装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

超音波探触子と、

前記超音波探触子を駆動して超音波ビームによる走査を行う送受信手段と、

前記走査により得られた信号を基に超音波画像を生成する超音波画像生成手段と、

前記超音波画像を表示する画像表示手段と、

通信回線を介してD I C O Mワークリストから本日の当該超音波診断装置の患者・検査予  
定情報を取得する患者・検査予定情報取得手段、取得した患者・検査予定情報を基に検査  
を次に実施すべき患者を抽出する検査実施患者抽出手段、該検査実施患者抽出手段によっ  
て抽出された検査予定患者の検査結果を記録するために該検査予定患者に対応付けられた  
データファイルである検査データを準備する検査データ準備手段を有する制御手段と、  
を具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項2】

請求項1に記載の超音波診断装置において、前記患者・検査予定情報は、検査予定時刻を  
含むことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項3】

請求項2に記載の超音波診断装置において、現在時刻と前記検査予定時刻とを対照して現  
在時刻が前記検査予定時刻に一定以上近づいたことを報知するお知らせ手段を具備したこ  
とを特徴とする超音波診断装置。

【請求項4】

10

20

請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載の超音波診断装置において、前記患者・検査予定情報は、患者 ID および患者氏名の少なくとも一方を含むことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の超音波診断装置において、取得した患者・検査予定情報を基に検査予定患者の患者 ID および患者氏名の少なくとも一方をリスト表示する予定リスト表示手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の超音波診断装置において、前記予定リスト表示手段は、リスト表示している各患者について、検査未実施、検査中または検査終了の状態表示を行うことを特徴とする超音波診断装置。

10

【請求項 7】

請求項 1 から請求項 6 のいずれかに記載の超音波診断装置において、記憶している複数の患者の ID および氏名の少なくとも一方をリスト表示すると共に取得した患者・検査予定情報を基に本日検査予定の患者を他と識別可能な表示態様に患者リスト表示手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の超音波診断装置において、前記患者リスト表示手段は、リスト表示している各患者について、検査未実施、検査中または検査終了の状態表示を行うことを特徴とする超音波診断装置。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、超音波診断装置に関し、さらに詳しくは、煩雑な操作が不要であり且つ設置負担の増加もなく、検査を実施する患者の検査データを準備することが出来る超音波診断装置に関する。

【背景技術】

【0002】

病院の検査室では、当日検査を行う予定の患者情報を、DICOM (Digital Imaging and COmmunication in Medicine) ワークリストを利用して取得し、取得した患者のリス

30

トを表示し、今から検査を実施する患者を操作者が選ぶと、当該患者の検査データが準備され、当該患者に対する検査を開始できるようになっている（例えば、特許文献 1 の [0015] 参照。）。  
また、病院の検査室で、今から検査を実施する患者の ID カードを読取機に入れると、当該 ID カードに対応する患者情報を、DICOM ワークリストを利用して取得し、当該患者の検査データが準備され、当該患者に対する検査を開始できるようになっている（例えば、特許文献 1 の [0016] 参照。）。

【特許文献 1】特開 2003 - 36313 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0003】

上記 1 番目の従来技術では、当日検査を行う予定の患者のリストの中から検査を実施する患者を操作者が選ぶ操作が必要であり、操作が煩雑になる。また、間違いを生じることもある。

上記 2 番目の従来技術では、患者の ID カードを読取機に入れる操作が必要であり、やはり操作が煩雑になる。また、ID カードの発行や読取機の設置などの設備負担が増える。

そこで、本発明の目的は、煩雑な操作が不要であり且つ設置負担の増加もなく、検査を実施する患者の検査データを準備することが出来る超音波診断装置を提供することにある。

50

**【課題を解決するための手段】****【0004】**

第1の観点では、本発明は、超音波探触子と、前記超音波探触子を駆動して超音波ビームによる走査を行う送受信手段と、前記走査により得られた信号を基に超音波画像を生成する超音波画像生成手段と、前記超音波画像を表示する画像表示手段と、通信回線を介してDICOMワークリストから本日の当該超音波診断装置の患者・検査予定情報を取得する患者・検査予定情報取得手段と、取得した患者・検査予定情報を基に検査を次に実施すべき患者を抽出する検査予定患者抽出手段と、抽出した検査予定患者に対する検査データを準備する検査データ準備手段とを具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

10

上記構成において、検査データとは、検査予定患者の検査結果を記録するために当該患者に対応付けられたデータ・ファイルである。

上記第1の観点による超音波診断装置では、通信回線を介してDICOMワークリストから本日の当該超音波診断装置の患者・検査予定情報を取得し、患者・検査予定情報に含まれる検査予定時刻や検査予定番号を基に検査を次に実施すべき患者を抽出し、その患者に対する検査データを準備することを自動的に行う。よって、患者のリストの中から検査を実施する患者を操作者が選ぶ操作や患者のIDカードを読取機に入れる操作なく、検査を実施する患者の検査データを準備することが出来る。また、IDカードの発行や読取機の設置などの設備負担も必要ない。

**【0005】**

20

第2の観点では、本発明は、前記第1の観点による超音波診断装置において、前記患者・検査予定情報は、検査予定時刻を含むことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第2の観点による超音波診断装置では、検査予定時刻を基に検査を次に実施すべき患者を抽出することが出来る。

**【0006】**

第3の観点では、本発明は、前記第2の観点による超音波診断装置において、現在時刻と前記検査予定時刻とを対照して現在時刻が前記検査予定時刻に一定以上近づいたことを報知するお知らせ手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第3の観点による超音波診断装置では、現在時刻が検査予定時刻に一定以上近づいたことを報知するので、現在の検査の進行状況を操作者がコントロールするのに役立つ。また、待機している患者にも役立つ。

30

**【0007】**

第4の観点では、本発明は、前記第1から第3のいずれかの観点による超音波診断装置において、前記患者・検査予定情報は、患者IDおよび患者氏名の少なくとも一方を含むことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第4の観点による超音波診断装置では、患者IDまたは患者氏名により患者を特定できる。また、患者IDおよび患者氏名の両方を含むようにすれば誤りを発見する一助となる。

**【0008】**

第5の観点では、本発明は、前記第4の観点による超音波診断装置において、取得した患者・検査予定情報を基に検査予定患者の患者IDおよび患者氏名の少なくとも一方をリスト表示する予定リスト表示手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

40

上記第5の観点による超音波診断装置では、本日検査予定患者を一覧することが出来る。

**【0009】**

第6の観点では、本発明は、前記第5の観点による超音波診断装置において、前記予定リスト表示手段は、リスト表示している各患者について、検査未実施、検査中または検査終了の状態表示を行うことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第6の観点による超音波診断装置では、本日検査予定患者の現在のステータスを視

50

認することが出来る。

【 0 0 1 0 】

第 7 の観点では、本発明は、前記第 1 から前記第 6 のいずれかの観点による超音波診断装置において、記憶している複数の患者の ID および氏名の少なくとも一方をリスト表示すると共に取得した患者・検査予定情報を基に本日検査予定の患者を他と識別可能な表示態様にする患者リスト表示手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第 7 の観点による超音波診断装置では、記憶している複数の患者の中で本日検査予定の患者とそうでない患者とを区別して一覧することが出来る。

【 0 0 1 1 】

第 8 の観点では、本発明は、前記第 7 の観点による超音波診断装置において、前記患者リスト表示手段は、リスト表示している各患者について、検査未実施、検査中または検査終了の状態表示を行うことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第 8 の観点による超音波診断装置では、記憶している複数の患者の現在のステータスを視認することが出来る。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 2 】

本発明の超音波診断装置によれば、患者のリストの中から検査を実施する患者を操作者が選ぶ操作や患者の ID カードを読取機に入れる操作のような煩雑な操作が不要であり且つ設置負担の増加もなく、検査を実施する患者の検査データを自動的に準備することが出来る。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 3 】

以下、図に示す実施の形態により本発明をさらに詳細に説明する。なお、これにより本発明が限定されるものではない。

【 実施例 1 】

【 0 0 1 4 】

図 1 は、実施例 1 に係る超音波診断装置 1 0 0 の構成説明図である。

この超音波診断装置 1 0 0 は、超音波探触子 1 と、超音波探触子 1 を駆動して被検体内を超音波ビームで走査する送受信部 2 と、走査により得られた信号を基に超音波画像を生成する画像生成部 3 と、画像やメッセージなどを表示する画像表示部 4 と、操作者が指示などを入力するための操作部 5 と、超音波画像やデータを記録するための記録部 6 と、病院内の D I C O M サーバ ( 図示省略 ) と通信するための通信部 7 と、全体を制御する制御部 8 とを具備している。

【 0 0 1 5 】

制御部 8 は、通信部 7 を介して D I C O M サーバにアクセスし D I C O M ワークリスト ( 図 1 2 の D W ) から自超音波診断装置 ( 他にも超音波診断装置がある場合を考慮し、他の超音波診断装置と区別するため、自超音波診断装置と表記する ) 1 0 0 の患者・検査予定情報 ( 図 4 の 6 8 ) を取得する患者・検査予定情報取得部 8 a と、個々の検査予定のステータスを管理するステータス管理部 8 b と、患者・検査予定情報 6 8 を基に検査を次に実施すべき検査予定を抽出する検査予定抽出部 8 c と、抽出した検査予定に対する検査データを準備する検査データ準備部 8 d と、ジョブ選択画面 ( 図 1 4 の G j ) を表示するジョブ選択画面表示部 8 e と、患者・検査予定情報 6 8 を基に予定リスト ( 図 1 6 参照 ) を作成し表示する予定リスト表示部 8 f と、記録部 6 に記憶している記録データ ( 図 2 の 6 0 ) および患者・検査予定情報 6 8 を基に患者リスト ( 図 1 7 参照 ) を作成し表示する患者リスト表示部 8 g と、次の検査予定時刻が近づいているメッセージ ( 図 1 5 参照 ) を報知するお知らせ部 8 h とを含んでいる。

【 0 0 1 6 】

図 2 に示すように、記録部 6 には、患者毎の記録データ 6 0 が記録されている。

一つの記録データ 6 0 は、対応する患者情報 6 1 と、1 以上のスタディ・データ 6 2 とからなる。

10

20

30

40

50

一つのスタディ・データ 6 2 は、スタディ情報 6 3 と、シリーズ情報 6 4 と、画像データ 6 5 と、計測データ 6 6 とからなる。

【 0 0 1 7 】

図 3 に示すように、患者情報 6 1 には、患者の ID ，患者の氏名，性別，生年月日などが含まれる。スタディ情報 6 3 には、患者の身長，体重，血圧，検査部位などが含まれる。シリーズ情報 6 4 には、検査予定日，検査予定時刻などが含まれる。

【 0 0 1 8 】

図 4 に示すように、記録部 6 には、患者・検査予定情報 6 8 が保持されている。

患者・検査予定情報 6 8 は、患者 ID ，患者氏名，性別，生年月日，検査予定日，検査予定時刻からなる。また、記録部 6 には、患者・検査予定情報 6 8 に対応するステータス情報 6 9 が保持されている。

10

【 0 0 1 9 】

図 5 は、超音波診断装置 1 0 0 の処理手順を示すフロー図である。

この処理は、超音波診断装置 1 0 0 のパワーオンにより起動される。

ステップ S 1 では、患者・検査予定情報取得部 8 a は、本日の患者・検査予定情報 6 8 を既に保持しているか否かを判定し、保持していないならステップ S 2 へ進み、保持しているならステップ S 3 へ進む。

【 0 0 2 0 】

ステップ S 2 では、患者・検査予定情報取得部 8 a は、通信部 7 を介して D I C O M サーバにアクセスし D I C O M ワークリスト DW から超音波診断装置 1 0 0 の患者・検査予定情報 6 8 を取得する。次に、ステータス管理部 8 b は、患者・検査予定情報 6 8 に含まれる患者の記録データ 6 0 を参照し、ステータス情報 6 9 を作成する。

20

ステップ S 3 では、お知らせ処理（図 1 1 ）を起動する。そして、ステップ S 4 へ進む。

【 0 0 2 1 】

図 1 2 は、D I C O M ワークリスト DW のデータ構造を示す概念図である。

D I C O M ワークリスト DW は、患者対応データ D 0 の集合である。

一つの患者対応データ D 0 は、対応する患者情報 D 1 と、1 以上のスタディ・データ D 2 とからなる。

一つのスタディ・データ D 2 は、スタディ情報 D 3 と、1 以上のシリーズ・データ D 4 とからなる。

30

シリーズ・データ D 4 は、シリーズ情報 D 5 と、検査予約情報 D 6 とからなる。

【 0 0 2 2 】

図 1 3 に示すように、患者情報 D 1 には、患者の ID ，患者の氏名，性別，生年月日などが含まれる。スタディ情報 D 3 には、患者の身長，体重，血圧，検査部位などが含まれる。シリーズ情報 D 5 には、モダリティが含まれる。検査予約情報 D 6 には、検査予定日，検査予定時刻などが含まれる。

【 0 0 2 3 】

図 5 に戻り、ステップ S 4 では、検査予定抽出部 8 c は、患者・検査予定情報 6 8 から次の検査予定を抽出する。

40

【 0 0 2 4 】

ステップ S 5 では、検査データ準備部 8 d は、次の検査予定に対する検査データ 6 2 を準備する。すなわち、次の検査予定の患者に対応する記録データ 6 0 が既にあれば、その記録データ 6 0 に新たな検査データ 6 2 を追加する。また、次の検査予定の患者に対応する記録データ 6 0 がなければ、次の検査予定の患者に対応する記録データ 6 0 を新たに作成し、その記録データ 6 0 に新たな検査データ 6 2 を追加する。

【 0 0 2 5 】

ステップ S 6 では、ジョブ選択画面表示部 8 e は、図 1 4 に示すジョブ選択画面 G j を表示する。

ジョブ選択画面 G j では、次の検査予定の患者 ID ，患者氏名，性別，生年月日，検査

50

予定日，検査予定時刻が表示される。また、ジョブを選択するためのボタンが表示される。

【0026】

ステップS7では、ジョブ選択画面Gjで「検査の実施」が選択されたなら図6のステップS21へ進み、そうでなければステップS8へ進む。

【0027】

ステップS8では、ジョブ選択画面Gjで「予定リストの表示」が選択されたなら図7のステップS31へ進み、そうでなければステップS9へ進む。

【0028】

ステップS9では、ジョブ選択画面Gjで「患者リストの表示」が選択されたなら図8のステップS41へ進み、そうでなければステップS12へ進む。

【0029】

ステップS12では、ジョブ選択画面Gjで「終了」が選択されたならステップS13へ進み、そうでなければステップS4に戻る。

【0030】

ステップS13では、終了処理を行い、処理を終了する。

【0031】

図6のステップS21では、ステータス管理部8bは、準備した検査データ62に対応する検査予定のステータス情報69を「検査中」にする。

【0032】

ステップS22では、制御部8は、操作者の指示に応じて患者の検査を行い、検査結果を検査データ62に記録する。

図15に、検査中の画面の一例を示す。

【0033】

ステップS23では、検査中の画面で検査終了が選択されたらステップS24へ進み、そうでなければステップS22に戻る。

【0034】

ステップS24では、ステータス管理部8bは、準備した検査データ62に対応する検査予定のステータス情報69を「検査終了」にする。そして、図5のステップS4に戻る。

【0035】

図7のステップS31では、予定リスト表示部8fは、図16に示す予定リスト画面を表示する。

予定リスト画面では、本日の検査予定の患者ID，患者氏名，性別，生年月日，検査予定日，検査予定時刻，ステータスのリストが表示される。また、ジョブを選択するためのボタンが表示される。

【0036】

ステップS32では、予定リスト画面で「ジョブ選択画面の表示」が選択されたなら図5のステップS4へ進み、そうでなければステップS33へ進む。

【0037】

ステップS33では、予定リスト画面で「予定リストの編集」が選択されたならステップS34へ進み、そうでなければステップS35へ進む。

ステップS34では、予定リストの内容を編集する処理を行う。この編集処理にて、内容の変更，削除および追加を行うことが出来る。そして、ステップS31に戻る。

【0038】

ステップS35では、予定リスト画面で「患者リストの表示」が選択されたなら図8のステップS41へ進み、そうでなければステップS36へ進む。

【0039】

ステップS36では、予定リスト画面で「患者・検査予定情報の取得」が選択されたなら図9のステップS51へ進み、そうでなければステップS37へ進む。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 4 0 】

ステップ S 3 7 では、予定リスト画面で「患者・検査予定情報の更新」が選択されたなら図 1 0 のステップ S 6 1 へ進み、そうでなければステップ S 3 1 に戻る。

## 【 0 0 4 1 】

図 8 のステップ S 4 1 では、患者リスト表示部 8 g は、図 1 7 に示す患者リスト画面を表示する。

患者リスト画面では、記録データ 6 0 の患者 I D , 患者氏名 , 性別 , 生年月日 , 検査予定日 , 検査予定時刻 , ステータスのリストが表示される。また、本日検査予定の患者を本日検査予定でない患者と識別可能な態様で表示する。さらに、ジョブを選択するためのボタンが表示される。

10

## 【 0 0 4 2 】

ステップ S 4 2 では、患者リスト画面で「ジョブ選択画面の表示」が選択されたなら図 5 のステップ S 4 へ進み、そうでなければステップ S 4 3 へ進む。

## 【 0 0 4 3 】

ステップ S 4 3 では、患者リスト画面で「予定リストの表示」が選択されたなら図 7 のステップ S 3 1 へ進み、そうでなければステップ S 4 4 へ進む。

## 【 0 0 4 4 】

ステップ S 4 4 では、患者リスト画面で「患者リストの編集」が選択されたならステップ S 4 5 へ進み、そうでなければステップ S 4 1 に戻る。

ステップ S 4 5 では、患者リストの内容を編集する処理を行う。この編集処理にて、内容の変更 , 削除および追加を行うことが出来る。そして、ステップ S 4 1 に戻る。

20

## 【 0 0 4 5 】

図 9 のステップ S 5 1 では、患者・検査予定情報取得部 8 a は、D I C O M ワークリスト D W に対する情報取得条件を操作者に入力させる。情報取得条件とは、検査予定日 , モダリティなどである。

ステップ S 5 2 では、入力された情報取得条件で D I C O M ワークリスト D W から患者・検査予定情報を取得する。そして、図 7 のステップ S 3 1 に戻る。

## 【 0 0 4 6 】

図 1 0 のステップ S 6 1 では、前回と同じ情報取得条件で D I C O M ワークリスト D W から患者・検査予定情報を取得する。そして、図 7 のステップ S 3 1 に戻る。

30

## 【 0 0 4 7 】

図 1 1 は、図 5 ~ 図 1 0 の処理と並行してお知らせ部 8 h が実行するお知らせ処理を示すフロー図である。

ステップ S 7 1 では、現時刻から 3 分後までの時間範囲に入る検査予定時刻が患者・検査予定情報 6 8 にあるかチェックし、あればステップ S 7 2 へ進み、なければステップ S 7 3 へ進む。

## 【 0 0 4 8 】

ステップ S 7 2 では、例えば図 1 5 に示すようなメッセージを一定時間だけ表示する。

## 【 0 0 4 9 】

ステップ S 7 3 では、所定の待機時間だけ待ち、ステップ S 7 1 に戻る。

40

## 【 0 0 5 0 】

実施例 1 の超音波診断装置 1 0 0 によれば次の効果が得られる。

( 1 ) 次に実施すべき患者を抽出し、その患者に対する検査データ 6 2 を準備することを自動的に行うことが出来る。

( 2 ) 患者リストの中から検査を実施する患者を操作者が選ぶ操作や患者の I D カードを読取機に入れる操作の必要がない。

( 3 ) I D カードの発行や読取機の設置などの設備負担も必要ない。

( 4 ) 予定リストで各検査予定のステータスを知ることが出来る。

( 5 ) 患者リストで本日検査予定の患者と本日検査予定でない患者とを識別することが出来る。また、本日検査予定の各検査予定のステータスを知ることが出来る。

50

(6) 検査予定時刻が近づいていることを操作者や患者に報知することが出来る。

【産業上の利用可能性】

【0051】

本発明の超音波診断装置は、例えば人間ドックなどで検査をルーチンとして行うのに利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0052】

【図1】実施例1に係る超音波診断装置を示す構成説明図である。

【図2】記録データのデータ構造を示す概念図である。

【図3】記録データの内容を例示する説明図である。

10

【図4】患者・検査予定情報およびステータス情報の概念図である。

【図5】実施例1に係る処理手順を示すフロー図である。

【図6】図5の続きのフロー図である。

【図7】図5の続きのフロー図である。

【図8】図5の続きのフロー図である。

【図9】図5の続きのフロー図である。

【図10】図5の続きのフロー図である。

【図11】お知らせ処理のフロー図である。

【図12】DICOMワークリストのデータ構造を示す概念図である。

【図13】DICOMワークリストの内容を例示する説明図である。

20

【図14】ジョブ選択画面を示す例示図である。

【図15】検査中の画面を示す例示図である。

【図16】予定リスト表示画面を示す例示図である。

【図17】患者リスト表示画面を示す例示図である。

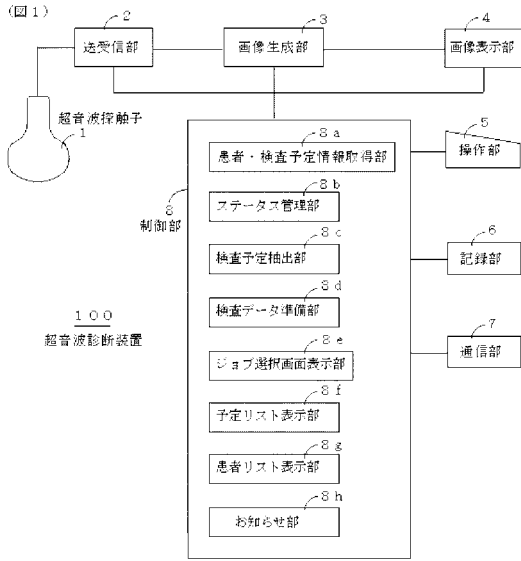
【符号の説明】

【0053】

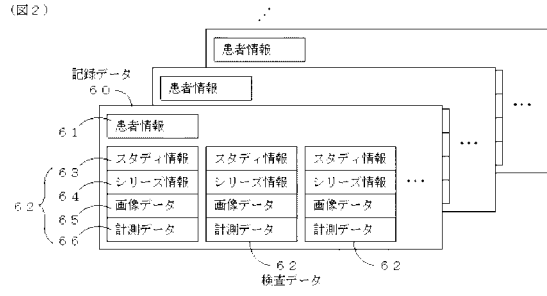
8	制御部
8 a	患者・検査予定情報取得部
8 b	ステータス管理部
8 c	検査予定抽出部
8 d	検査データ準備部
8 e	ジョブ選択画面表示部
8 f	予定リスト表示部
8 g	患者リスト表示部
8 h	お知らせ部
100	超音波診断装置

30

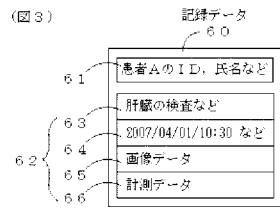
【図1】



【図2】



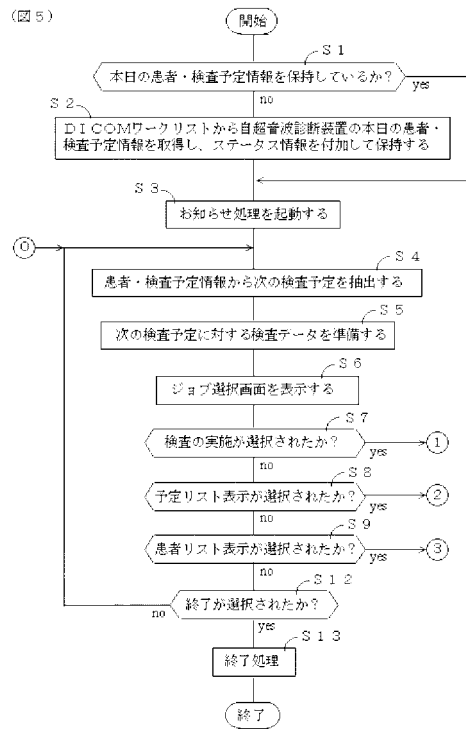
【図3】



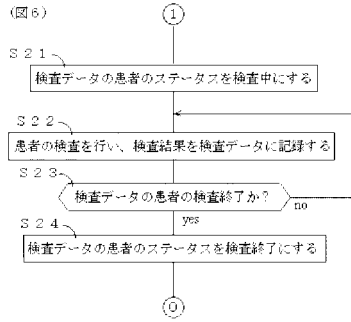
【図4】

患者・検査予定情報 68							ステータス情報 69
患者ID	患者氏名	性別	生年月日	検査予定日	検査予定時刻	ステータス	
0001	横河 太郎	男	1974/01/01	2007/03/10	09:00	検査未実施	
0003	横河 三郎	男	1975/03/03	2007/03/10	10:00	検査未実施	
0005	横河 花子	女	1975/03/03	2007/03/10	11:00	検査未実施	

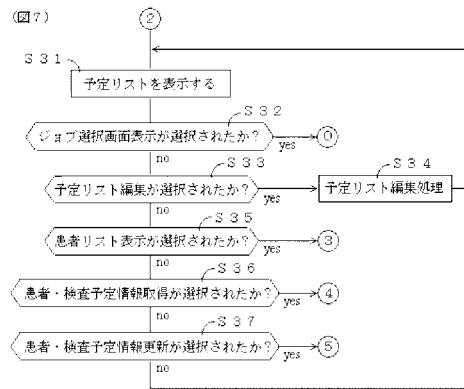
【図5】



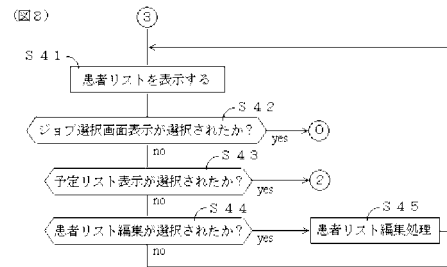
【図6】



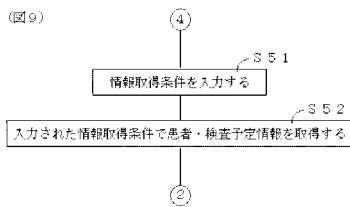
【図7】



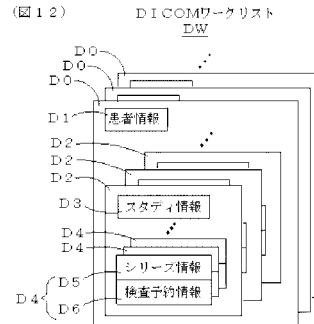
【図8】



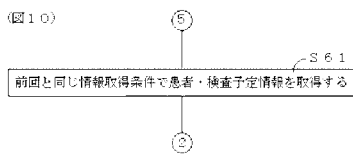
【図9】



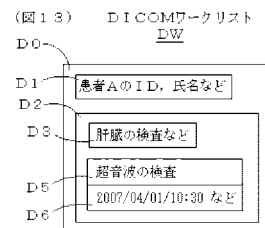
【図12】



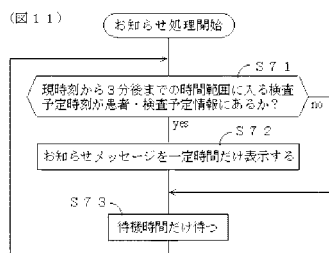
【図10】



【図13】



【図11】



【 図 1 4 】

(図 1 4) ジョブ選択画面

次の検査予定

患者ID	患者氏名	性別	生年月日	検査予定日	検査予定時刻
0001	横河 太郎	男	1974/01/01	2007/03/10	09:00

ジョブを選択して下さい

患者リストの表示   予定リストの表示   検査の実施   終了

【 図 1 6 】

(図 1 6) 予定リスト

患者ID	患者氏名	性別	生年月日	検査予定日	検査予定時刻	ステータス
0001	横河 太郎	男	1974/01/01	2007/03/10	09:00	検査終了
0003	横河 三郎	男	1975/03/03	2007/03/10	10:00	検査中
0005	横河 花子	女	1975/03/03	2007/03/10	11:00	検査未実施

患者・検査予定情報の取得   患者・検査予定情報の更新   患者リストの表示   予定リストの編集   ジョブ選択画面の表示

【 図 1 5 】

(図 1 5)

0001  
横河 太郎  
男  
1974/01/01生

次の患者の検査予定時刻まであと3分です

検査終了

【 図 1 7 】

(図 1 7) 患者リスト

患者ID	患者氏名	性別	生年月日	検査予定日 最後検査日	検査予定時刻	ステータス
0001	横河 太郎	男	1974/01/01	2007/03/10	09:00	検査終了
0002	横河 治郎	男	1974/02/02	2007/03/09	09:00	検査終了
0003	横河 三郎	男	1975/03/03	2007/03/10	10:00	検査中
0004	横河 史朗	男	1974/02/02	2006/12/23	11:00	検査終了
0005	横河 花子	女	1975/03/03	2007/03/10	11:00	検査未実施

患者リストの編集   予定リストの表示   ジョブ選択画面の表示

---

フロントページの続き

(72)発明者 阿部 弥生

東京都日野市旭ヶ丘4丁目7番地の127 ジーイー横河メディカルシステム株式会社内

審査官 富永 昌彦

(56)参考文献 特開2002-215809(JP,A)

特開2005-261952(JP,A)

特開2004-329926(JP,A)

特表2006-511881(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61B 8/00

专利名称(译)	超声诊断设备		
公开(公告)号	<a href="#">JP5179773B2</a>	公开(公告)日	2013-04-10
申请号	JP2007105384	申请日	2007-04-13
申请(专利权)人(译)	GE医疗系统环球技术公司有限责任公司		
当前申请(专利权)人(译)	GE医疗系统环球技术公司有限责任公司		
[标]发明人	小西美紀 阿部弥生		
发明人	小西 美紀 阿部 弥生		
IPC分类号	A61B8/00 G06Q50/22		
FI分类号	A61B8/00 G06F17/60.126.E G06Q50/22 G06Q50/22.104 G16H10/00 G16H20/00 G16H40/60		
F-TERM分类号	4C601/EE11 4C601/KK35 4C601/LL40 5L099/AA03		
其他公开文献	JP2008259715A		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

摘要(译)

要解决的问题：自动为要检查的患者准备检查数据。ZSOLUTION：此超声诊断系统（不是任何其他超声诊断系统）的患者检查时间表信息是通过通信线路（S2）从DICOM（医学数字成像和医学通信）工作清单获得的，下一位患者是检查从预定的检查时间和患者检查计划信息中包括的预定号码中取出（S4），并自动准备该患者的检查数据（5）。由此，可以自动准备待检查患者的检查数据，而无需任何复杂的操作或增加安装附加设备的成本。Z

(図4) 患者・検査予定情報      ステータス情報

68      69

患者ID	患者氏名	性別	生年月日	検査予定日	検査予定時刻	ステータス
0001	横河 太郎	男	1974/01/01	2007/03/10	09:00	検査未実施
0003	横河 三郎	男	1975/03/03	2007/03/10	10:00	検査未実施
0005	横河 花子	女	1975/03/03	2007/03/10	11:00	検査未実施